
SAMPLE

セツカチーナ・スギルさま

ジョーティシュで見る人生の設計書

KAORISAN - 2026年9月2日



D1（出生時の星の配置による性格の方向づけ）

ラグナ：蠍座

ラグナロード火星：獅子座10室

2室：木星支配 → 木星は7室牡牛座

4室：土星支配 → 土星は4室水瓶座、自室

5室：木星支配 → 木星7室

7室：金星支配 → 金星7室、自室

9室：月支配 → 月3室

10室：太陽支配 → 太陽7室

11室：水星支配 → 水星6室

かなり明確に、「自分一人で完結する人生」ではなく、他者・社会・対人関係を通して自己を実現するチャート

本来のテーマ、

「自分の力を持ったまま、人と組むこと」

ここを成熟させると、人を相手にする仕事でかなり強いチャートです。

1. 「人当たりのいい人」とは限らない

蠍座ラグナ＝基本的な人格構造はかなり強い。

表面上どう見えるかは別に、

- ・ 人を簡単には信用しない
- ・ 相手の裏を読む
- ・ 自分の本心を全部は見せない
- ・ 支配されることを嫌う
- ・ 一度「敵」と認識するとかなり頑固
- ・ 執着が強い
- ・ 白黒をつけたがる

という傾向。

- ・ かなり仕事意識が強い配置。
- ・ 「自分は何者なのか」を、仕事・社会的達成・肩書き・結果によって証明しようとしやすい。
- ・ 仕事で自分の存在価値を感じられなくなると、かなり不安定になりやすい。

2. 人生の重要テーマ＝「他者」「パートナー」「人間関係」「顧客」「社会との接点」

- ・ 人との関係を通して人生が動く人
- ・ 一人で黙々と何かをやっているだけでは、人生が大きく展開しにくい。
- ・ 人を相手にする仕事、顧客、パートナー、共同事業、交渉、営業、コンサルティングなどは非常に重要。

3. ただし「人間関係」が簡単ではない

対人関係にかなり強い欲望を持ちやすい配置。「普通の関係」では満足しにくい。

恋愛でも仕事でも、

- ・ 強烈に惹かれる
- ・ 相手を理想化する
- ・ 相手から認められたい
- ・ 特別な関係になりたい
- ・ 相手に強い期待をする
- ・ しかし期待が膨らみすぎる
- ・ その後、幻滅する

というパターンが出やすい。

「人に恵まれない」ではなく、人に対する欲望・期待値が高すぎるかも。

4. 金星は非常に強い

- ・ 美的センス
- ・ 人を惹きつける力
- ・ 対人魅力
- ・ 快楽
- ・ 金銭感覚
- ・ 良いものを見分ける感覚
- ・ 人との距離感

などに強さあり。

- ・ お金・恋愛・快楽・人間関係に対する出費が大きくなりやすい。
- ・ 「好きだから使う」が起こりやすい。
- ・ 恋愛では、かなり情念的になりやすい。

5. 木星7室は「人を導く」能力

木星は2室・5室支配。その木星が7室。(かなり良い配置)

2室＝知識・言葉・財産

5室＝知性・教育・創造性

7室＝他者・顧客・社会

「自分が持っている知識や才能を、人に提供することで価値に変える」

教師、講師、コンサル、カウンセリング、アドバイス、専門職などとの相性は良い。

ただしラーフが木星に絡むので、知識や思想が極端になりやすい。

6. 「幸運が降ってくる」というより、自分で動いて運を作る人。

9室の月が3室に入るので、

- ・ 発信
- ・ 書く
- ・ 話す
- ・ 移動する
- ・ 情報を集める
- ・ 自分で経験する
- ・ 技術を身につける

ことが人生の発展につながる。

ただし感情をかなりコントロールする。

本当は感情が動いていても、「そんなことを言っても仕方ない」と抑える傾向。

そのため、人から見ると冷静でも、内側ではかなり溜め込む可能性。

7. 「安心する」「甘える」「何もせず休む」という能力が弱い

これは非常に強い。4室＝家庭・居場所・心の安定・母親・内面。そこに土星が自室。

この人は、内面的にはかなり**硬い**。

自分の居場所を自分で作るタイプ。

家庭環境についても、責任・義務・距離感というテーマが強く出やすい。

ただし土星が強いので、年齢とともに安定。

8. 頭の使い方がかなり戦闘的

- ・ 議論
- ・ 分析
- ・ 問題発見
- ・ 相手の矛盾を見つける
- ・ 細かいところを突く
- ・ 情報戦
- ・ 競争

には強い。

一方で、「正しいことを言う」とことと「人間関係をうまくする」ことが一致しない

9. かなり強い「社会的成功」の構造

自分自身を社会に出す

↓

仕事になる

↓

人を相手にすることで発展する

という構造。

この人は「裏方だけ」の人生より、自分自身が前面に出る仕事が合っている。

成熟後の姿

D9（人生経験を積んで変化した後の姿）

結論

D1ではかなり強欲・強情・自己主張型に見えたが、D9ではそれをそのまま押し通す人ではない。

成熟すると、

「自分の欲望を満たす」→「自分の価値観に従って生きる」方向へ変化していくタイプ。

1. 強そうに振る舞っているけど、実際にはかなり情緒的

D1の蠍座と合わせると、内側はかなり感情的。

外側：

蠍座 → 強い、警戒心、支配力、簡単に弱みを見せない

内側：

蟹座 → 情が深い、傷つきやすい、安心できる居場所を求める

感情を持っていないのではなく、感情を管理しようとする人。

2. 「自分を大切に扱ってくれる人」を強く求める

金星の強さが二重に確認される。

この人の人生において、

- ・ 愛情
- ・ 美
- ・ 快樂
- ・ 人間関係
- ・ パートナー
- ・ お金
- ・ 物質的な豊かさ

が非常に重要だということ。特に「愛されたい」という欲求は強いでしょう。

ただし単純な恋愛体質というより、「自分を大切に扱ってくれる人」を強く求め、
雑に扱われることにはかなり弱い。

3. 結婚は簡単ではない

パートナーシップが、

仕事・社会的立場・責任・義務と絡みやすい。

つまり「好きだから一緒にいる」だけでは続かない。現実的な責任が発生すると、

- ・ 相手への不満
- ・ 責任の押し付け合い
- ・ 主導権争い
- ・ 距離感の問題

が出やすい。

4.恋愛・結婚では「どちらが主導権を握るか」問題

ここはかなり強烈。

火星 2°53'

冥王星 2°50'

ほぼ同度数。

ジョーティシュでは通常冥王星を主要判定には使いませんが、補助的に見るなら相当強い配置。

天秤座＝パートナーシップ・対人関係。

そこに火星。

つまり、人間関係に戦闘性が入る。相手と対等でいたい。でも相手に譲るのも嫌。

5.「自分が我慢して責任を背負う」状態に強いストレス

責任を負うこと自体が嫌なのではなく、「自分が我慢して責任を背負う」状態に強いストレスを感じる

「私ばかりやっている」という感覚を持つと非常に不満が溜まる。

そして突然、「もう知らない」と切る可能性がある。

結婚生活では、役割分担を曖昧にしないほうがいい。

6.理想を現実に落とす能力

木星＝拡大・信念・知恵

土星＝制限・責任・現実

この二つが合。

この人の中には、

「もっと自由にやりたい」と「現実的に責任を取らなければ」という二つの力が常にある。

そのため人生観が極端になりやすい。

若い頃は、「こうあるべき」という理想を持つ。

しかし現実にあふつかる。そして徐々に、理想を現実へと落とす能力を身につける。

これは成熟すると非常に強い。

7. 「私は何を信じ、何を変えたいのか」

D1では太陽が牡牛座。D9では水瓶座。面白い変化。

D1の太陽：

自分の価値・所有・安定・結果

D9の太陽：

自由・社会・集団・既存システムへの距離

つまり成熟するほど、「私は何を持っているか」より「私は何を信じ、何を変えたいのか」

に関心が移っていく。かなり思想性が出てくる可能性。

8. 年齢を重ねるほど感情的に楽になる

D1：月 山羊座 0°32'

D9：月 山羊座 4°54'

月のサインがD1/D9で同じ。

精神構造の根っこがかなり固定されている。

つまり、感情を簡単には人に預けない。責任感が強く、弱音を吐くのが苦手。

そして、「ちゃんとしなければ」という感覚が強い。

ただしこのタイプは、年齢を重ねるほど感情的に楽になる傾向。

9. D9で金星が強いのに、火星も強烈

この人の恋愛・結婚の核心。

金星：愛したい・愛されたい・心地よくいたい

VS

火星：自分の意志を通したい・負けたくない

両方が強い。

だから、「穏やかな関係が欲しい」と思いながら、「でも私の言うことも聞いてほしい」

となりやすい。

さらに蠍座ラグナなので、妥協して表面上だけ合わせるのも苦手。

結果として、愛情は深いが、関係性は穏やかとは限らない。

10. この人が成熟するとどうなるか

成熟していくと、

「感情に振り回されず、自分の価値観を持ちながら、人との関係を楽しむ」

方向に行く。

逆に未成熟だと、

「愛されたい → 相手をコントロールする → 相手が離れる → 傷つく → さらに警戒する」

という循環に入りやすい。

D1+D9 合わせた人物像

この人は「弱い人」ではない。むしろ強すぎる。

問題は、その強さをどこに使うか。

未成熟な状態

- ・ 自分の思い通りにしたい
- ・ 相手に認められたい
- ・ 人から評価されたい
- ・ 主導権を握りたい
- ・ でも傷つくのは怖い
- ・ だから相手を警戒する
- ・ 人間関係が疲れる

成熟した状態

- ・ 自分の価値観を確立する
- ・ 他人をコントロールしない
- ・ しかし自分も支配されない
- ・ 良い人間関係を選ぶ
- ・ 自分の才能を社会に出す
- ・ 美・知識・価値を人に提供する

という方向。

そしてD1・D9両方でかなり強く出ているのが、

「人との関係を避けるのではなく、人との関係を使って自分の人生を大きくする」

というテーマ。

ただし、この人の場合、「誰と組むか」が非常に重要。

相手選びを間違えると、恋愛でも仕事でも、かなりのエネルギーを消耗するチャート

転換期（ナウ）＝「これまで成立していた人生の構造が剥がれる時期」

- ・「仕事が変わる」程度ではなく、人生の軸そのものを組み替える時期
- ・2020年以降の19年間は、人生の後半戦に向けた再構築期と見ていい。
- ・この人物が手放す可能性が高いのは、
「これまで自分の価値を証明してきた仕事のやり方」そのもの。
- ・職業名が変わるというより、「自分が頑張って成果を出す」方式から、
「自分の知識・経験・思想そのものを価値として提供する」方式へ移っていく。
- ・職業選択というより、社会的アイデンティティの再構築。
- ・今、「他人との関係の中で成立してきた自分」から離れて、「私は本当は何者なのか」
に戻される時期。
- ・正確には、「他人から必要とされることで自分の価値を確認する生き方」を手放す時期

2027年6月以降が重要

現在の土星／ケートゥは、2026年5月～2027年6月頃。

この時期は「完成」ではなく、むしろ削る時期。

その後、

土星／金星2027年6月頃～2030年8月頃に入ります。これはかなり意味があります。

なぜなら、この人のD1・D9では金星が非常に強い。

D1：金星は牡牛座・自室 D9：金星も牡牛座・自室

さらにD10では金星が10室ロード。つまり、土星／ケートゥで古いものを切る

↓

土星／金星で新しい仕事・価値・収入構造を作る

という流れが非常にきれいです。

現在の2026年は今は「収穫期」ではなく「脱皮期」。
新しい仕事を完成させることより、古い仕事を手放すことのほうが重要。